平成 27 年 12 月 22 日

分野別意見交換会テーマについて【会津若松除雪実施協力会】

【議題】

官民連携による降雪対策のあり方について

◎　人口減少や少子高齢化の進展などにより、本市の雪対策は、従来の自助、共助の取り組みの維持が困難になっている。しかしながら、雪対策の推進を行政のみで対応していくことは困難であり、限られた人、モノ、金等の資源を地域の実情に即した形で組み合わせ、効率的・効果的な除排雪体制を構築する必要があり、官民の連携体制をいかに構築し、降雪対策に当たるかが重要な論点となっている。

【個別テーマ】

１　官民の役割分担のあり方

◎　地域の現状に即した除排雪を推進するためには、活動主体となり得る行政、事業者、市民が、それぞれの利点を生かした役割を担いながら相互に協力する体制を構築すべきである。

２　人材育成（オペレーター）の必要性及びその方策

◎　除排雪対策の重要な担い手である民間事業者の縮小・撤退がある中で、会津若松除雪実施協力会をはじめとした民間事業者の活動を強化していく必要がある。

◎　また、人口減少や少子高齢化が進展する中で、持続可能な除排雪体制を構築するためには、人材育成をいかに進めていくかが重要である。

３　除雪機械の維持管理・更新のあり方

◎　多額の費用を要する除雪機械の維持管理・更新が、民間事業者の負担になっていると聞く。官民が保有する機械の長寿命化の取り組みや、計画的な更新、市保有機械のリースの推進など、効率的・効果的な除雪機械の維持管理・更新のあり方について、全市的な視点から検討する必要がある。

◎　蟹川橋の機械置場が車庫ではなく雨ざらしになっている。維持や故障の要因となることから改善が必要である。

４　除排雪時等における業者間連携のあり方

◎　より効果的な除排雪を推進するためには、各事業者が個々の優位性を生かしながら、相互連携を深め、一体的に取り組む必要がある。

５　町内会等地域住民との連携の必要性

◎　単身高齢者や障がい者などの除雪困難世帯の間口除雪をはじめ、町内会等の地域住民が相互協力のもと除雪を行っている。このような中で、道路除雪や雪溜め場の排雪を担う委託事業者と住民との連携により、除排雪作業のタイミングなどの情報を共有するなど、相互の連携をさらに深め、効率的な除排雪に取り組む必要がある。

６　その他（自由意見）